別紙様式２

令和３年度　現職研修助成事業研修報告書

令和４年２月２１日

研修形態	学校研修　グループ研修　サークル研修　個人研修　　（該当に○）
研修主題	よりよい生き方を求める児童の育成 ～課題解決に向けて生き生きと学び合う授業づくり～
研修の概要 成果 今後の課題	山口県教育委員会の指定を受けた「令和３年度　授業力向上実践研究発表会」（１１月１９日実施）に向けて、研究主題「よりよい生き方を求める児童の育成　～課題解決に向けて生き生きと学び合う授業づくり～」を掲げ、教職員全員が一丸となって研修に取り組んできた。ここでの「課題」とは、教師が一方的に示した課題ではなく、児童が自分事として捉え、主体的に思考を働かせる原動力となる課題である。「生き生きと学び合う」とは、①一人一人が主体的に課題解決に取り組む姿、②協働して学び合う姿、③粘り強く取り組む姿の３つの児童の姿をイメージしている。子どもたちが課題解決に向けて生き生きと学び合う授業を実践していくことが「よりより生き方を求める児童の育成」へとつながると考え、研修主題を設定している。 今回の研究発表会は、若手教員（経験年数２～５年）の授業力向上を主なねらいとし、そのために、全教職員が協働的に授業づくりを行っていくこととした。まず、低・中・高学年、特別支援の４グループを編成し、授業づくり、指導案作成を協働で進めた。そして、夏の研修では、４人の講師の先生方をお招きし、それぞれの部会でご指導をいただいた。各グループの公開授業、授業者、講師の先生方は次の通りである。 ・低学年　国語科（１年）　授業者　入江　礼子 「のりもののことをしらべよう　いろいろなふね」 講師　山口市立大歳小学校　教頭　西嶋　智　様 ・中学年　体育科（４年）　授業者　石丸　美玲 「ボールを床に落とすな！（ネット型キャッチバレーボール） 講師　下松市教育委員会　指導主事　河村　貴之　様 ・高学年　算数科（６年）　授業者　安永　優香 「比例と反比例」 講師　山口大学教育学部附属光小学校　教諭　兼安　陽一朗　様 ・特別支援　合同自立（４学級合同）授業者　中島　佳代子 「モルックすルック」 講師　周南市立菊川小学校　教諭　吉永　裕子　様 ２学期からは、全教職員が「一人一授業」として公開授業を行った。そこでの成果や課題を共有し、授業づくりに生かしていくようにした。また、研究発表会の直前には、「プレ公開授業」と題し、公開授業担当ではない学年の教員が授業公開をし、研究協議会も行った。こうした経験が全教職員の授業力向上だけでなく、運営面での計画や見通しの持ちやすさにもつながったのは良かった。

校内研修で、講師の先生と指導案の協働作成をする教職員

１１月１９日（金）研究発表会当日は、県内各地から４０名以上の参加者があり、国語科（１年）、体育科（４年）、算数科（６年）、合同自立（特別支援）の４つの部会で授業を公開することができた。

特に、特別支援では、４学級合同で小集団による活動を行い、担任や同じ学級の友達に限らずこれまであまり関わったことのない相手と活動することで、友達とのよりよい関わり方を学ぶことができるようにするために、「モルック」を教材として取り入れることとした。モルックは、スキットル（的）を倒して、ちょうど５０点を目指す競技である。最後まで勝敗がわからないという面白さや偶然性が高く勝敗が固定化されないという良さがあるため、どの児童も前向きに活動に取り組めると考えたからである。

モルックを楽しむ児童

活動の振り返りする児童

６年算数「比例と反比例」

～ネジ１本当たりの重さを求める～

１年国語　効果的なペア学習

４年体育　課題解決的な学習活動

公開授業後は、グループごとに分かれ、それぞれの会場で協議を行ったところ、様々な意見が交わされていた。また、講師の先生方から指導を受け、研修を深めることができた。研究協議会終了後には、県教委、市教委の担当者からも指導を受け、研究発表会までの取組や当日の公開授業等について価値付けをしていただいた。今回の研究発表会は、本校教職員にとって貴重な経験となった。